

「もっと響く指導」に するために！ 生きたデータの徹底研究

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を2006年から12年まで伝えてきた「生きたデータの徹底活用」のコーナー。更に響く指導を実現するために、これまで掲載した記事を基に現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 3年生2学期後半の意識付け



「生きたデータ」2007年10月号を参考に、
3年生2学期の家庭学習習慣の把握を行ったところ……

● 家庭学習習慣の維持・改善を図る「学習の記録」

A 生活時間帯併記型（1日の生活のリズムをチェックしよう）

月/日 (曜)	行事	生活時間帯												教科別学習時間					合計	
		午前						午後						英	数	国	歴公	理		
/	()	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	時分	時分	時分	時分	時分	時分

B 累計時間掲載型（自宅学習時間はどれくらい？）

今月の目標		目標勉強時間		実際の勉強時間	
		英語()	数学()	国語()	()
		歴公()	理科()	※1日平均	
		※1日平均			

月/日 (曜)	行事	学習時間									一言振り返り・反省
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
/	()										

ダウンロード

「もっと響く指導」
のポイント

①

学習状況を客観視し、
成果と課題を自ら語る力を養う

私の狙い

生徒に自らの学習状況を把握させることで、不安を解消させつつ、学習上の改善点を指摘したかった

取り組み内容

毎週1回、記録を提出させ、各担任がチェックするようにした

感じた課題

回収した学習の記録で何をチェックし、活用するか、学年団で意思統一が図られていなかった。また、「学習時間が少ないと叱られる」と水増しして提出する生徒もいた



この時期の3年生は、学習の取り組み方や学習量に対して漠然とした不安感を抱いていることがあります。そうした不安を解消し、今の自分の取り組みに自信を持たせるため、以前3年生の担任を務めた時に、生活リズムや教科バランス、学習量をチェックする「学習の記録」を活用しました。しかし、生徒たちにとっては「記録することが目的化してしまったように思います。



私も経験があります。学習時間の総量を強調しすぎると「学習時間が少ないと叱られる」と考える生徒が出てきます。この時期、学習記録を活用する際は「学習の具体的な成果や改善点を知り、自分を客観的に分析する」ことが目的だと、生徒に明確に伝えることが大切だと思います。



学習記録を付けることは、担任が生徒をチェックするだけでなく、自分で自分をチェックするためだということが生徒に伝わっていませんでした。



学習記録を付けたから学習時間が増えるというものでもないと思いますし、この時期の担任は、学習時間の増減以上に、学習の質も見ることが大切だと思います。例えば、苦手な数学の学習時間が減ったのは、数学から逃げたために時間が減ったのか、分からない問題に時間を掛け過ぎないよう、一定の時間考えたら解説を見るようにするなど、勉強の仕方が変わったからなのかどうかで、その後の声掛けが違ってきます。

*このコーナーは、高校の先生方（今回は関東、中国、九州地方）との検討会の内容を基に構成しています。

若手先生代表

九州地方の公立高校
に勤務。14年度は2
回目の3学年担任。



A先生(30代)

中堅先生代表

九州地方の公立高校
に勤務。14年度は3
学年主任を務める。



B先生(40代)



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案



●家庭学習の成果と課題を客観視する「学習の記録」

自分の状況を客観的に分析しよう								組	番	名前		
月/日 (曜)	次の模試 まであと	教科別学習時間(前回模試SS)					合計	生活リズム				一言振り返り・反省
		英() 時 分	数() 時 分	国() 時 分	歴公() 時 分	理() 時 分		起床	帰宅	宅習 開始	就寝	
/	日	予定						:	:	:	:	
()		実績						:	:	:	:	
/	日	予定						:	:	:	:	
()		実績						:	:	:	:	
/	日	予定						:	:	:	:	
()		実績						:	:	:	:	
/	日	予定						:	:	:	:	
()		実績						:	:	:	:	

〈1週間の成果と反省〉

成果

反省

「もっと響く指導」のために
改訂すると……



私は生徒に「成績不振の原因は、しばしば生活習慣にあるものだ」とよく話しています。時間の使い方に無駄や無理があったり、生活のリズムに乱れがあったりすれば、成績は伸び悩むからです。そうした受験直前期ならではの生活習慣の改善点を見つけるための学習記録だと説明します。



以前活用した際、毎日生徒から回収し、チェックするようにしたのですが、担任としては正直負担感も大きかったです。



毎日のチェックは必須ではなく、1週間など時間を区切って確認すればよいでしょう。むしろ大切なのは学習記録を材料に、生徒が自分の状況を分析し、今後何をすべきかを自ら語る面談の場を設けることです。上のように、生活リズムと学習量の関係を確認できる記録表を利用してみてはどうでしょうか。



担任が「学習時間をチェックする」という気持ちで面談に臨むと、どうしても「この教科・科目の学習量が足りない」などと、生徒を一方向的に注意しがちです。



学習時間の不足は生徒もよく分かっています。あとは、何をどうすれば改善できるかを自分で語らせることで、行動を変えることが出来ます。「君はどう思う?」と聞き役に徹し、生徒に多くを語らせたいものです。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

記録表からの
生徒把握の
観点は
共有されているか?

今回の記事の検討会には、関東・中国・九州地方から、地域を代表する進学校の先生が参加されました。先生方は、「担任が管理する学習から、生徒が自律する学習への後押し」としての役割を学習記録に見いだされていました。一方で、「学年団の中で、学習記録の読み取り方がぶれている場合もある」という現実も指摘されました。「経験の浅い若手がいる場合は、『帰宅時間から学習開始までの時間に変動はないか』などチェックの観点を改めて共有するミーティングも必要」という提案もありました。



「生きたデータ」2007年10月号を参考に、
センター試験2か月前の志望を確認させたところ……



● 学びの内容を重視し、全国の大学に目を向けさせる面談資料
【生徒自身による記入と、教師からのアドバイスで作成】

現段階の志望校	注目している 研究内容や教育制度 (生徒による記入)	そのほかの特徴			入試基礎データ(ベネッセ「PERFECT BOOK」などより)				
		COE	GP	伝統など	目標得点		募集人員		昨年度 実質倍率
					センター試験	2次試験	前期/後期	前期/後期	前期/後期
A大 工学部	ロケット工学の分野で実績あり	○	○	旧帝大	650	156	200/150	5.2/5.8	
B大 工学部	卒業生の就職実績良好		○		615	260	300/100	4.2/6.2	
C大 理工学部	日本最大の実験施設所有				600	320	100/50	3.8/6.1	

このほかの志望校候補	注目すべき 研究内容や教育制度 (教師からのアドバイス)	そのほかの特徴			入試基礎データ(ベネッセ「PERFECT BOOK」などより)				
		COE	GP	伝統など	目標得点		募集人員		昨年度 実質倍率
					センター試験	2次試験	前期/後期	前期/後期	前期/後期
Q大 工学部	航空機エンジン研究で実績あり		○		600	420	300/150	3.7/3.9	
R大 理工学部	コンピュータ教育が充実			開校2年	600	260	200/100	2.8/3.8	
S大 工学部	留学制度が充実。進学率が高い		○		580	350	100/150	1.9/4.1	

私の狙い

模試の合格可能性判定
だけにとられず、学
びたいことを軸に、幅
広く受験校を考えさせ
たかった

取り組み内容

11月に生徒に配布し、自
宅で記入させた。担任か
らは受験情報誌や大学案
内など参照すべき資料を
紹介した

感じた課題

回収したシートからだけでは、生
徒の志望の「こだわり」「軸」が
見えなかった。シートをもとに
した面談の実施状況も各担任では
らつきがあった



以前、3年生の担任を務めた時には、上記のようなシートを使って志望校と注目している研究内容、入試データなどを生徒に書かせました。今年度、再び3年生の担任となったので、シートの改訂も行いたいのですが、COEやGPといった項目の変更をはじめ、どんな観点で改訂を行えばよいか悩んでいます。学年団には「入試データだけ書けばよいのでは」という声もあるのですが……。



確かに2学期後半からは教師も生徒も入試データにますます目が向くものです。しかし、「何を学びたいか」「志望校に感じる魅力」を入試直前まで確認していくことが、納得感のある受験校選択と、粘り強い学習につながると思います。



近年は、大学中退者の増加も問題になっていますよね。第1志望以外の第2、第3志望の大学に出願する場合を想定して、志望校への納得感をこの時期も継続して高めておくことが大切だと私も思います。



受験校選択のためだけでなく、生徒を「大学で学べることを考えたら、勉強のやる気が高まった」「粘り強く学習に取り組めるようになった」という状態にしてあげたいですね。最近、受験のストレスの軽減のための指導を行う高校もあると聞きます。「この時期からは勉強のことだけを考えればよい」という考えからの転換が必要でしょう。

「もっと響く指導」
のポイント

②

志望の「こだわり」「軸」を再確認すること、
納得感のある受験校選択へとつなげる



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます！

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご利用ください！

HOME→教育情報→高校向け→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2006年度10月号 3年生2学期の意識付け
2007年度10月号 粘り強さを育む3年生2学期の意識付け
2012年度8月号 「根拠」を明確にすることで、3年生2学期からの志望を貫く



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」作成改訂案



● 志望の軸を明確にする面談資料

現段階の志望校	注目している 研究内容や教育制度 (生徒による記入)	卒業後の希望進路、 取得したい資格 (生徒による記入)	その大学に感じる 魅力 (生徒による記入)	入試基礎データ(ベネッセ「PERFECT BOOK」などより)				
				目標得点		募集人員	昨年度 実質倍率	最新の 模試 判定
				センター試験	2次試験	前期/後期	前期/後期	
A大 工学部	ロケット工学の分野で 実績あり			650	156	200/150	5.2/5.8	D
B大 工学部	卒業生の就職実績良好			615	260	300/100	4.2/6.2	C
C大 理工学部	日本最大の 実験施設所有			600	320	100/50	3.8/6.1	B

保護者サイン []
※何かあればご自由にお書きください

「もっと響く指導」のために
改訂すること……



とはいえ、学びたい内容、就職や資格といった項目については、「入学段階からいろいろな取り組みを通して十分に考えてきたのだから、同じことをこの時期になって改めて聞く必要はない」という考えもあると思います……。



大切なことだから何度も尋ねるべきですし、生徒が自分の言葉で説明することで、それが志望の軸となって根付くのだと思います。また、入試本番が迫る中、これまで以上に本気で進路を考え、志望の軸が明確になっているはず。模試判定などの現実も踏まえながらの志望だからこそ、本物だと言えるのではないのでしょうか。そうした生徒の志望の軸を把握することで、出願直前の三者面談で、生徒が「私の志望のこだわりはこれです」と自信を持って保護者に語り、担任も後押しする関係をつくるのが大切です。



では、こうしたシートはいつ、どのように書かせればよいのでしょうか。学校ではなかなか時間が取りにくいですから、シートを自宅で書かせてくる方がよいのでしょうか？



私は、自宅では勉強に集中させたいので、LHRなどの時間で出来るだけ書かせるようにした方がよいと考えています。もちろん、時間が足りない時は家で書いても構いませんが、教室で、皆で取り組むことで、「志望を振り返る」ことが大切なのだと実感できるはず。記入した後に「よし、頑張ろう！」とクラス全員が笑顔になれたらいいですね。

プラスαの検討ポイント

From 編集部

生徒を
自分自身の
言葉によって
本気にさせる

今回の誌面の検討会では、「生徒自身に学習の改善点や、志望のこだわりを語らせることで、それが生徒の内面に根付いて、行動につながる」と先生方はおっしゃっていました。ある先生は「本校では北海道から九州まで、生徒は全国に進学しているが、それは教師以上に生徒が様々な大学の魅力を自分の言葉で語れるようになった結果だ」と説明されました。学習時間の確保が最優先なのは当然ですが、その中で生徒が志望校への思いを語る場面もつくっていくことが大切なのでしょう。